



### クライストチャーチ市インターンシップ報告 ～海外で自治体施策を学ぶ～

(一財)自治体国際化協会シドニー事務所 所長補佐 石田 寛樹 (総務省派遣)

#### クライストチャーチについて

ニュージーランドのクライストチャーチ市は人口約38万人で、ニュージーランド南島最大の都市です。クライストチャーチの名は英国オックスフォード大学のクライストチャーチカレッジに由来すると言われています。1856年、クライストチャーチ市はニュージーランドで最初の市として認められました。民族構成はヨーロッパ系が約8割を占め、アジア系とマオリ系が続きます。産業はリース業・不動産サービス業系の割合が最も大きく全体の22%を占めています。またクライストチャーチ市は世界に5つある南極ゲートウェイの1つとして、南極地域の重要な物流ハブとしても機能しています。



復旧中のクライストチャーチ大聖堂

#### インターン研修

クレアシドニー事務所では職員研修の一環として管轄地域であるオーストラリアおよびニュージーランドの地方自治体へインターンシップを行っています。

今回私はニュージーランドのクライストチャーチ市役所へ伺い、災害対策、地域観光施策、姉妹都市施策について学んできました。

#### 災害対策

ニュージーランドは日本と同様、火山噴火や地震などの自然災害が多い国です。クライストチャーチ市では2011年2月22日にマグニチュード6.3の大地震があり、185名の犠牲者を出しました。このように大きな災害を経験しているクライストチャーチ市で災害対策を学ぶことは日本の災害対策を考える上で参考になると思います。

ニュージーランドの災害などの危機管理に関しては、中央組織として国家緊急事態管理庁 (National Emergency Management Agency) があり、地方ごとに16の市民防衛危機管理局 (Civil Defence Emergency Management) があります。クライストチャーチ市はカンタベリー地方に属しており、今回、カンタベリー市民防衛危機管理局で災害対策を学びました。

市民防衛危機管理局は地域コミュニティ、民間組織、地方自治体、政府などと調整しながら、危機管理対応、災害予防などを行っています。地方自治体も法律によって管轄地域の市民防衛危機管理局に協力する責務があります。

市民防衛危機管理局は平時においては、防災教育の企画、防災に関するコミュニティサポート、緊急時サポートボランティアの訓練、災害対応能力向上の推進などを行っています。一方、災害時においては、他の関係機関と連携し災害対応を行っていきます。その際、緊急オペレーションセンターで対応します。具体的には緊急サービスの調整、重要な情報の発信、危険区域へのアクセス管理、水、食料、一時的な宿泊施設の確保などを行うこととなります。同センターは合同庁舎になっており、警察、地方矯正局、救急関係団体、消防、市民防衛危機管理局が入っています。2011年のクライストチャーチでの大地震後の教訓として災害対応の際、様々な関係機



関が協力して対応することが重要という認識があり、合同庁舎にこれらの機関が入ることになりました。巨大なモニタースクリーンが配備されている協働スペースも設置されています。



カンタベリー市民防衛危機管理局にて

また、大規模かつ広域的な災害時では、日本で行われている応急対策職員派遣制度と同様な枠組みが取られていることがわかりました。国家緊急事態管理庁の指揮の下、被災地域へ市民防衛危機管理局の職員が応援派遣される仕組みがあります。ここで特筆すべきは、全国の16の市民防衛危機管理局の職員に応援可能な職員の募集を呼びかけ、上司の許可を受けた上で、職員個人が、そのスキルや資格、対応可能期間などを所定のオンライン様式上で登録し、応募することと、それを国家緊急事態管理庁が把握し、必要となる人材を必要となる場所へ派遣する点です。オンラインで対応可能な人材、スキルを持った人材を管理することができ、迅速な災害対応・復旧対応が可能とのことです。



災害対応機関が入る合同庁舎

## 地域観光施策

ニュージーランド政府が示している観光目的地運営ガイドラインに沿って、クライストチャーチ市ではクライストチャーチ NZ という市の外郭団体にあたる組織が地域の魅力 PR を担当して市の広報を行っています。

このガイドラインでは観光は経済発展に不可欠な要素であり、より広範な経済発展を達成するために重要な原動力となり、地域の評判、新たな移住者や企業、学生を惹きつける上で重要であるとされています。そこでクライストチャーチ NZ はただ、観光の PR を行うのでは

なく、暮らし、ビジネス、留学など様々な情報を有機的に関連づけて市の魅力を伝えています。また、クライストチャーチ NZ が担当している地域は主にクライストチャーチ市ですが、周辺地域も含めた広域を担当することとなっています。このような理由からクライストチャーチ市から別の自治体の観光スポットへのアクセス方法や観光案内も行っています。観光客からの視点では、1つの自治体内の観光案内だけでなく、周辺の情報も併せて得られる方が移動して旅行を楽しみたいという場合には、より便利であるように感じます。日本の自治体の観光 PR では、その自治体だけの観光スポット情報などを示している場合が多いですが、特に海外からの観光客は1つの自治体のみを旅行することよりも、広域的な範囲を移動しながら観光することの方が少なくないと感じます。このような広域的な観光 PR の仕方も今後のインバウンド観光客の増加を見越して参考となるかもしれません。

## 姉妹都市交流

クライストチャーチ市は世界に7つ姉妹都市を持っています。そのうちの1つとして岡山県倉敷市があります。両市は1973年3月7日に姉妹都市締結し、今年で50周年を迎えました。クライストチャーチ市では姉妹都市交流は基本的には民間団体が中心となって活動しているとのことです。最近の課題としては姉妹都市交流を行っている民間団体の方々の高齢化をあげていました。また姉妹都市の意義をより住民へ丁寧に説明していかなければならないこともあげていました。50周年という長い期間お互いに深めてきた両市の交流も、より一段と活発に進展し、今後も両市にとってより重要なパートナーとなることを期待しています。



クライストチャーチ市役所正面